

平成19年度 広島市立広島特別支援学校 学校経営計画 最終評価

学校教育目標	児童・生徒の発達を保障する教育を行い、一人ひとりの力を伸ばして、主体性をもって豊かに生きる人間を育てる。 <基本目標> <学部目標>
	児童・生徒の発達を保障する教育を行い、一人ひとりの力を伸ばして、主体性をもって豊かに生きる人間を育てる。 訪問学級:生きる力を育てる。 小学部:先生や友達といっしょに生活する楽しさを感じ取り、自分から進んでものごとに取り組む力を育てる。 中学部:主体的に生活する力を育てる。 高等部:豊かに生活できる力をつける。

目指す学校像(ビジョン)	一人ひとりが大切にされ、児童・生徒、家庭、地域社会に信頼される学校 ・一人ひとりの児童・生徒を大切にしている学校 ・安全で、清潔で、整った学校 ・「都市型」「総合型」「学校、地域の特別支援の教育センター」「開かれた学校」の各機能を果たす学校
--------------	---

領域	中期経営目標	NO	短期経営目標	具体的方策	評価		次年度以降の課題と対応策
					努力指標	成果指標	
学力の向上・豊かな人間性の育成	関係法令・学習指導要領等に準拠し、一人一人の児童生徒の確かな成長・発達を期して次の取組を行う。 全教科・領域について、年間指導計画に基づき計画的に指導を展開する。 日々の授業改善を推進するため、指導案等をもとに授業の振り返りを丁寧に行う。 社会や自然での豊かな体験活動を計画的(系統的)・積極的に推進する。 近隣校や地域との交流を推進する 児童生徒の実態に即して、コミュニケーション能力を高める多様な取組を進める。	1	国語・算数(数学)についてより詳細な年間指導計画を作成する	【教務部】 指導目標・指導内容の概略・評価の観点・配当時数等を網羅した年間指導計画を作成する。	3	3	よりポイントを押さえた年間指導計画の作成と見直しを行うことができるよう引き続き取組んでいく。
		2	努力事項の取組を進める中で、指導案・指導略案等を元にして指導の振り返りを行う。	【研修部】 各学年、グループで指導案を元に指導の振り返りを行うとともに指導略案を各学年ごとにファイリングをする。	2	2	引き続き取組む。今年度ファイリングしたものは次年度の指導の参考となるよう閲覧できるようにしていく。
		3	小・中・高等部の学部ごとに、社会や自然での体験活動を教育課程上整理する。	【教務部】 教育課程上の位置づけやねらいを明らかにし必要性について学部ごとにとりまとめる。	3	3	学期末期ごとに教育課程上の位置づけ及びねらいに関して検討を行なった。新設校に向けた新教育課程の検討もあり、本校としての領域・教科を合わせた指導形態や教科、総合的な学習の時間の内容、ねらい等の検討も引き続き行なっていく。
		4	小・中・高等部の学部ごとに、近隣校の児童生徒や地域の人々との交流計画を作成し実践する。	【人権教育部】 学部・学年ごとに近隣校の児童生徒や地域の人々との直接的及び間接的交流計画の作成・実施を行う。	3	3	引き続き全体や学部で研修会を設け、学部に応じた交流を実践しながら検討していく。
		5	児童生徒の実態に即して読み聞かせ等、読書活動の時間を設定して、ことばによる教育を進める。	【教務部】 年間指導計画の中で読み聞かせ等、読書活動に関することを位置づける。	3	3	児童・生徒のニーズに合わせて様々な領域・教科の中で取組んでおり、概ね定着してきている。

領域	中期経営目標	NO	短期経営目標	具体的方策	評価		次年度以降の課題と対応策		
					努力指標	成果指標			
専門性の向上	<p>教職員一人ひとりが専門性を発揮し、児童生徒の障害実態や発達課題、疾病等へ配慮事項に即した指導方法を習得し、授業の質的改善を図るため次の取組みを行う。</p> <p>各種の校内研修会や公開授業研究の開催及び、校外の各種研究会に積極的に参加する。</p> <p>各種標準検査等児童生徒の客観的な実態把握の手法を習得する。</p> <p>自閉症児の実態把握、指導方法等について研修を深める。</p> <p>医療機関等との緊密な連携をすすめる。</p>	6	努力事項の取組を元に、全学部で授業公開・研究協議を行う。	【研修部】 授業公開の指導案を元に事前研修会を行い各学部で授業公開、研究協議を行う。	4	4	次年度も授業公開、研究授業、研究協議、事前研修会、事後研修会を実施し、授業研究を深める。		
		7	各種標準検査の実施方法や結果の分析・解釈等について研修する。	【入学相談部】 【小学部】 KIDS(発達検査)について学部研で研修を行い、学年・クラス単位でケースをあげながら深める。	2	3	引き続き取組み、発達検査の実施を通して、発達検査についての理解を深め、今後の活かし方について検討していく。		
				【入学相談部】 【中学部】 学部内の検査内容のニーズをつかみ、今後使用していく標準検査法を研修して検査法を選定していく。	2	2	引き続き取組み、発達検査の内容とその検査方法について知り、実際に検査を行い、今後の活かし方について検討していく。		
				【入学相談部】 【高等部】 WISC- の分析の方法について研修を深め、生徒の実態把握に役立てる。	2	2	引き続き取組み、発達検査の内容と方法について知り、理解を深め青年期の実態把握に役立つ発達検査についての研修の機会を考えていく。		
		8	自閉症についてのその実態理解や指導の在り方等に関わる研修を行う。	【研修部】 自閉症児の実態理解のための研修会を実施する。	3	3	職員の研修会への参加率が高く、今後も回を重ねて研修を深めたい。実施に関しては多くの研修会の中で日程調整を行い、日程確保を行っていく。		
		9	主治医・看護師や医療機関との連携をより緊密にし、日々の指導の充実を図る	【保健指導部】 担任と保健室が連携し医療相談を行い、疾病への配慮事項や障害に応じた指導方法を見だし、情報を個人ファイルに集積する。	4	4	担任と保健室が連携をとりながら医療相談を行い指導に活かすことが定着し、成果をあげることができており、システムとして機能している。今後も継続して取組む。		
				【医療的ケア検討委員会】 医療的ケアの全体研修会を2回、希望者研修会を年4回行い、医療的ケアの知識を高める。	3	4	研修会の日程を確保することが困難である。特に希望者研修会は他の会議と重なったため参加が難しかった。年間行事の中に研修をしっかりと位置づけたい。また、学校看護師の研修を受ける機会も保障していきたい。		
		教育環境の整備	<p>安全で且つ清潔で児童生徒が活動しやすい整った教育環境づくりとして次の取組みを行う。</p> <p>校内の物品の整理整頓を進め、児童生徒が学習しやすい環境整備をすすめる。</p> <p>児童生徒の保健・安全を徹底し健康な学校生活を確保する。</p> <p>危機管理のための施設整備・職員体制の整備・職員対応の研修等すすめる。</p>	10	教室内外の物品等の整理整頓を行うとともに、児童生徒作品の掲示方法を工夫する。	【学年】 児童・生徒の登校前、または下校後に教室廊下等の整理整頓を毎日行う。	2	3	整理整頓については収納できるスペースに限度があるので限界はあるが、現状でできることについて教員の取組みの反省、及び保護者からの指摘がアンケートにもある。教育環境からの視点、及び衛生面、安全確保等のためにできることを継続して取組む。
				11	児童生徒のけが等の発生実態や要因等を分析し、具体的な予防策を講じる。	【学年】 児童・生徒が学習成果の達成感・満足感や学習への期待感を味わえるような掲示方法の工夫するとともに、説明等を加え保護者・来校者にも学習の様子や成果等が分かりやすい掲示を行う。	3	4	学年、学級によって掲示のための環境・条件等が異なり、さらに評価者の視点で評価が異なるが、各担当で工夫を行いある程度の評価をいただいた。掲示場所・内容等の情報も発信しながら継続して取組む。
【保健指導部】 けがの発生実態や要因に応じて担任や保護者と連携し、分析を行い情報を職員間で共有しながら予防策を講じる。	4					4	けがの発生実態や要因を分析を行い今後の対応策を検討し情報を共有する事故災害報告のシステムを構築し、内容により全校・学部・学年・学級単位等に情報提供及び改善策について提案を行い一定の成果をあげることができた。引き続き取組んでいきたい。		
12	不審者に対する教職員研修を行い、安心して生活できる教育環境の整備を行う。			【生活指導部】 不審者対応マニュアルを職員に周知する。特に夏期全体研修会等で周知の徹底を図り、課題を明らかにし、より安全な	3	3	毎年研修会を行うのは他の研修会との兼ね合いで難しいので今までどおり隔年開催を考えていきたい。年度始めにはマニュアルの周知を図りたい。		

領域	中期経営目標	NO	短期経営目標	具体的方策	評価		次年度以降の課題と対応策
					努力指標	成果指標	
				環境整備に努める			

領域	中期経営目標	NO	短期経営目標	具体的方策	評価		次年度以降の課題と対応策
					努力指標	成果指標	
家庭・地域社会との連携	児童・生徒、家庭、地域社会に開かれた信頼される学校づくりを推進するため、次の取組みを行う 積極的に学校情報の公開や学校協力者会議、地域社会等との多彩な連携をすすめる。 学校教育活動についての外部評価を積極的に推進する。	13	学校行事や授業等、各種教育活動について保護者や来校者にアンケート調査を実施したり、教育活動の実施方法等の改善・充実を図る。	【学校評価委員会】 参観日における授業についてのアンケートの検討を行い、作成し実施する。	4	3 (3.3)	各種アンケートにより、多角的なニーズ及び評価等様々な情報を得ることができた。保護者への結果等の情報提供の在り方や分析結果が教育活動の改善・充実に反映できるような工夫・改善を行っていききたい。
			本校ホームページの内容の見直しを行い、教育活動の紹介や行事の案内等、各種情報発信を積極的に行う。	【情報教育部】 外部に公開して有益になりそうなデータを毎月の部会で検討する。各種便りが発行され次第速やかにアップする。	2	1	情報教育部がホームページにアップできる情報を得ることができなかった。各分掌部に情報提供を呼びかける方法の工夫、及び改善を行っていききたい。
新たな学校作りの推進	本校の将来構想に掲げられた、各種機能「都市型」「総合型」「学校、地域の特別支援の教育センター」「開かれた学校」を果たす学校づくりを構想・推進する。 4つの機能について研究・研修し教職員間の共通理解を図る。 教育課程・学級編成・校務運営組織等々の情報収集を進め、本校の実態に即してこれらの計画を検討する。 「センター的機能」の概念整理に照らし、地域や小・中学校等のニーズに応じて、可能な事項から支援・協力を図る。	15	先進校の視察等により、各種情報[教育課程・校内組織・施設等]の収集をすすめ情報の共有化等を図るとともに移転開校までの構想実現化の具体的手順を整理する。	【新設校等検討委員会】 夏期までに視察を行いハード面について新設校の計画に反映させる。ソフト面については拡大新設校検討委員会に情報提供する。	2	4	用地決定が延びて基本計画や年次計画が具体化しない。 基本計画の策定に向けて学校としてできることは全面的に協力する。さらにハード面にとどまらずソフト面の具体的な年次計画についても校内意見を集約して教育委員会の合意を得られるように努力する。用地決定が延びてもソフト面を中心に引き続き検討が必要。
				【拡大新設校等検討委員会】 現(平成18年度作成)年次計画(具体的進行表)の見直しと修正と提案を行う。	3	4	
		16	センター的機能やコーディネーターの在り方について整理し、校内組織体制の整備策をとりまとめる。	【拡大新設校等検討委員会】 アンケート内容の検討によるセンター的機能の具体的内容の整理を行う。	3	3	校内組織が従来のみでニーズのあるセンター的機能の実現を図るための見直しがまだ実現できていない。 地域支援部の組織と運営について広く校内の理解と協力を働きかけ、具体的センター的機能の推進母体として機能するように校内組織を整備する。
				【拡大新設校等検討委員会】 センター的機能実施の骨格案の検討と作成を行う。	3	3	
		17	把握した支援ニーズについて分析し、備品等の貸与や研修支援計画等、可能な事項について取り組む。	【拡大新設校等検討委員会】 校外への教材見本市(展示会)の開催、およびWebでの公開等を通して教材・教具の紹介や情報発信を行う。	2	4	教材展示会の参加者の意見を反映させること、貸し出し簿の手続き等についての校内の共通理解が図られていない。より校外からのニーズに適切に速やかに応えることができるように校内の意識統一を図る。 教材展示会、備品等の貸与や研修支援計画等これまでの実施の在り方についてアンケート結果等を踏まえ、再度よりよい在り方について検討を進め、改善を図る。
				【拡大新設校等検討委員会】 貸し出し簿の案の検討、備品、消耗品のリストアップ化と手続き案の検討を行う。	3	4	
18	小・中学校等に支援の一環として「個別の指導計画」「個別的教育支援計画(同移行支援計画)」の作成・活用の手順を整理し、紹介する。	【進路指導部】 個別的教育支援計画と個別の移行支援計画を活用した地域生活ネットワークでの事例検討会と実践事例のWebページでの情報公開を行う。	3	4	本校高等部の事例検討会を行ってきたこともあり、小中学部の教職員への反映が課題である。今後は小中学部の事例検討も学部単位を超えて行い、全職員で研修を進めていききたい。 校内の職員に対しては個別の指導計画の作成・活用の周知を行った。外部に対しては中区小中学校教員対象の教育相談会において本校コーディネーター等が作成・活用のノウハウ等についての相談を行った。引き続き取組んでいく。		
		【教務部】 個別の指導計画の作成・活用の手順の周知を図るとともに小中学校等への紹介を行う。	2	2			